

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

The Epitome of James Joyce's Finnegans Wake  
III, 3 (3)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大島, 由紀夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1259">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1259</a>

[資料]

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』  
第3部第3章の概要 (3) (p.527 l.3 ~ p.554 l.10)

大島由紀夫\*

(Accepted October 28, 2015)

The Epitome of James Joyce's *Finnegans Wake* III, 3 (3)

Yukio OSHIMA\*

**Abstract:** I translated into Japanese James Joyce's *Finnegans Wake* III, 3 (527.3~554.10). In some parts I translated it word for word, but in other parts I just gave the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word 'epitome,' not 'translation.' The epitome mainly treats Four Masters' inquisition on Yaun.

**Key words:** *Finnegans Wake* Part III, 3 epitome

——【ショーンはイシーとなり、鏡に映った自分に語りかける】私の親愛なる人、聞いて！ あれはひどかったわよ、あのハリモクジュは。来て、この胸の中でお休みなさい！ 彼を失って残念だわ、哀れな子羊ちゃん！ あの夢のような場所に、夢を見るあの時間に行くなんて、本当にあなたは悪い子ね！ 夜の真暗闇の中でも、闇雲に突き進むって本当にいけないことだわ！ 彼はえらく尊大になった。2階でストリップショー【の写真】を見て喜んでいるのよ。隅にいる男の子たちもしゃべっている。そしてあなたの悲惨な最初の経験【メンズ】があなたのもとにやってくる。でもそれを帳消しにするくらい私の幼妻ぶりは神々しいのよ。あなたが裸でいると愛らしく見えるとみんなが言うの。まさに聖体ね。ボア口薬局から買ってきたコールドクリームのアソルータを完璧に塗って。このクリームはこんがり焼けた卵焼きのような色に肌が焼けた後で、いつも病棟で使っているの。一番役立っているものだわ。日焼け跡にね。あら、裸になったのね！ 素晴らしいと言う他ない！ あなたの髪の中に手をほんのちょっとだけ入れることができるかしら！ 本当に実に全く小さいのね！ アア、皺さんね、初めまして。と言って下さい。斑点さん！ 握手。むき出しの魅力ある腕回りの下の、その曲線といったら！ 男子禁制のショーツまでに、最も大切なもの2つをもっている姿を見ると余計神々しくなる。ネエ、私の腕は何となく愛嬌があって、これだけ他より白いわ。白い手のイゾルデね。怠け者の。金髪なのね。華奢な髪。ネエ、可愛くさえある！ サア、楽しい気分になって！ 鏡は嘘をつかないわ。象牙色の小さなろうそくも、修道院の中も、金色の結婚指輪も！ 私のパールを鏡にかぶせれば、彼の

永遠の情熱の火でこの鏡に映った姿が焼けてなくなることもないでしょう！ この鏡に映った姿は、彼にとっても私にとっても、同じくらい崇拜すべきものであるように思える。もちろん本当に姿を変えて、完璧に魅力的な格好で、神様の思召しで、私の愛の鳥たち、私のコロンビーナたちと一緒に私に会うなんて、私のバルトロ【ロッシーニの歌劇『セビリアの理髪師』の中の悪役】である彼は本当にものすごく悪い人だったわ。彼女たちの感受性は弱くなっていたのよ。私たちの修道女のネッタヤリングでさえ。彼女たち少しは彼と会っていたのね、ありがとう！ 私の髪は香ばしい。口調は生真面目だけれど。昨日の夕方、襟を高くした彼の口ひげの生えた唇から聞いた話だけれど、本当に私たちお互い同士崇めあっているの（私のイザボー様【フランス王シャルル6世の妃】！ 私の美しい女王様！）。この時彼のあのいつもの男らしい胸に顔を向けるように彼に言い、前よりももっと一杯キスすると、私のちっちゃなお尻でさえ興奮したのよ。ただ、私の言葉を完全に取違えて、うさんくさい人に話してしまうかもしれない。紹介してもいいですか！ この人は未来の妻なのです。キスすると、最も愛しく見えるのです。かわいそうなおいたさん、まだ私はあなたと一緒にいるのよ！ 受胎してお母さんになるということと、彼と私との間の栄光に満ちた嘘と、私たちは仲直りするでしょう、優しい人。(528) だからすべてのロレート修道院で行われる9日間の祈りによるものではなく、最も小さな祈りによるものでもなく、神の恵みとして私たちの唇からどのような言葉が漏れたのか知る必要があるのです。そうね、私たちはそうしましょう！ クロート【ギリシャ神話中の運命の女神の1人】が吹かせる

\* Department of Maritime Systems Engineering, Division of Marine Technology, Graduate School, Tokyo University of Marine Science and Technology, 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan (東京海洋大学大学院海洋工学系海事システム工学部門)

風に乗って！ お礼がもらえるかしら、そうでなければ  
 チェットというところね！ 優しく私たちを抱いて下さい！  
 恐れを吹き飛ばして！ 母なる神が見ている。深く彼を愛  
 して！ しばらくの間私を心地よい気分させて。私の家  
 で猫クラブの人たちみんなが大騒ぎした後、聖オーグイオン  
 教会のローマン・カトリックのチャペルで、とても素晴  
 らしい祝宴付きの結婚式が執り行われるでしょう。福者で  
 あるメンデルズゾーン神父が愛すべき助け手となってく  
 れるでしょう。主よ、慈悲を！ 主よ、慈悲を！ 主よ、慈  
 悲を！ 大いなる慈悲を。私たちを祝って歌いたまえ！  
 私たちを祝って歌いたまえ！ 私たちを祝って歌いたま  
 え！ アーメン！ 私と同じ最も近い物憂気なシスター  
 よ、私に決して遠慮しないで！（私は消えつつあります！）  
 そして聞いて、美人のシスターさん、あなたを知っている  
 人たちにとって私は道標になるでしょう。トルカ川の気持  
 ちのいいサラサラいう音を聞きながら私が横たわっている  
 間、マタイやマルコヤルカやヨハネよ、祈りを捧げて下さ  
 い。（私はこうなるように運命づけられているの！）

—— エウサピア・パツラディーノのような霊媒師だ  
 な！ やってくれ、完璧に！ 恋いこがれたヒステリック  
 患者かね。歴史的な掘り出し物かね。いったいどうしてこ  
 んな風なのか。元々父親がこんな風なのか。それとも若い  
 娘というのはこんな風なのか。シスターとシスターの間柄  
 についての彼女の最初の散文詩を聞かせてくれるかね。魅  
 力あふれる鏡の国の、双子の血が流れている、入り組んだ  
 血統をもつ愉快的アリスなのかね。それとも巨獣の国の驚  
 き悲しむアリスなのかね【巨獣はアリスに「君が好きだ」  
 と言う】。ディン、ドン！ お前の結婚を祝う絹の光沢を  
 もった鐘はどこにあるのだ。「表出体」としての少女のこ  
 とを考えてごらん。「受胎告知された者」としてのもう1  
 人の彼女を考えてごらん。「純粹観念」としての彼女から  
 最初の考えを追い払え。ノックしてみなさい、そうすれば  
 「純粹観念」としての彼女があなたの元に現れよう。以前  
 は輝いていて、しかし今も輝いている者はこれからも常に  
 輝くであろう。【表出体としての】彼女を閉じ込めなさい、  
 彼女にベールをかぶせなさい。こっそりと彼女に罫を仕掛  
 けなさい。抒情的な美しい旋律をもつ柔らかな輝く谷間のア  
 ヤメとしての彼女がいなくなった後は、婉曲的に言って、  
 この若い女性はどうなるのだろう。ソフィヤ【ドストエフ  
 スキーの『罪と罰』中の娼婦】に対するコンスエラ【ジョ  
 ルジュ・サンドの『コンスエラ』中の純粹な女性】のよう  
 に、今後自分自身に対して二律背反的行動を示すのかね。

—— ファン！ 何ということだ、語り手が4人ですか！

—— 【若者の4博士の1人となって】あれやこれや、あ  
 あでもないこうでもない！ マンスターの蛍さんたち、あ  
 んたたちはめっちゃくちゃに活気があるんだね。いつもの  
 ように。こちらのコールサインは、ロング・ホーンズ・コナ  
 ハトの2R.N。私の通信の邪魔をしないでくれ！ あんた  
 たちは1542年にこの首都を乗っ取り、それ以来甘い汁を

吸ってきた。しかし同じアイルランドでも、このおしゃべ  
 りさんたちよ、あんたたちの国境と私の国境とでは大きな  
 違いがある。レンスターの少年兵はあの世に行ってしまった  
 が、マンスターもコナハトも更なることが待ち構えている  
 のだ。ロバと名付けられていたこの子供とともに。犬野  
 郎たちが勝つことは決してない！ この前はあんたたちが  
 主導権をとって私たちは負けてしまったが、今度はまず私  
 たちが踏みつぶし、あんたたちは最後を迎えずとそうなる  
 のだ。お好きなように、その柵となった椅子を飛び越え  
 るか、あるいはそれを取り払ってしまえ。でもまず、いい  
 かね、狐さん、私のいくつかの質問に答えなさい！ 粥を  
 大釜で炊くように、スキュラボーグで住民を焼殺したほど  
 の厚顔無恥をお前は露わにしてきた。(529) 市場のコミッ  
 ショナーのヘイデン・ウムウェルは、食事中に唇を鳴ら  
 されるといふ恥辱を受けた時、チョークの16パーセント  
 以上を純化して、その原料である混じりけのない、即座に  
 出来上がる、完璧な粉末にしたのかね。彼の粗挽き粉の  
 7000分の1以下の純度をもつものにしたのかね。新しい  
 種類の、信頼出来る頭脳をもつ我々聡明で若い者たちは、  
 この点事情をよく知っている。そして若者の平等化のため  
 の性差別撤廃法の下、母親の許可を得て「15人以下委託  
 委員」【15室委員会はパネルを指導者から追放した】に  
 より、四季裁判所において、次のことを強制的に知る権限  
 を得たのだ。即ち、鼻を切り取られないための金【バイキ  
 ングは相手から金を奪えない場合、鼻を切り落とした】を  
 安くしてもらい、足で男の睾丸を扱ったために物議をかも  
 した2人の雑働、服地屋の助手であるマーサ嬢とメア  
 リー嬢が、最後の勤め先を解雇された時に、接客ノート  
 をちゃんと片付けていたのかどうか、また彼女たちがJ.H.  
 ノース・アンド・カンパニー【競売会社】に正式のサイ  
 ンしたのかどうかということだ。また控えの間にいる委  
 員会メンバーのところに行って、バット・ホックセット社  
 【「大樽・大桶」という意味】の元社員であるオビヨルセン  
 あるいはモックマックホニッチが、トゥーリー通りの3人  
 の仕立屋の名前を使って、規定容量を無視して薄めたアル  
 コール飲料の樽をどのようにして合法的に手に入れている  
 のか、彼らに聞いてくれないかね。また彼らに次のように  
 尋ねるのはまずいことかね。白髪の新開りである、コン  
 ビー通りに住む、マン島から呼び寄せられた、このありふ  
 れた男フォックスフィックスホーセンが、グラストフィ  
 ールの辻馬車の御者のように自分のロバに乗ることを心の中  
 で考えていたかもしれないのに、卵形の胴体をもちおまけ  
 にフレッドボルグで作られた自分の聖櫃を、何故背中に担  
 いでいたのか。洞穴のある丘で訓練していた、鉄の心の持  
 ち主である王立アルスター警察隊連絡係員によれば、帽子  
 をかぶり、トレンチコートの前をあけ、軍律に反してポ  
 ケットに手を入れていた、勝利の目的を果たしたあの3人  
 の兵士たち、ハンセン、モーフィッド、性病にかかったオ  
 ドヤーは、彼が等身大の障害物に出くわした時、どこを目

指して歩いていたのか。彼はいつあの哀れな者たちを見るのをやめたのか。「父と子と精霊」亭で神父さんとしての活動をどのように彼は始めたのか。そしてまた次のいくつかの事柄は紛れもない事実であり、確実に証明されていることなのか、即ち、つるつるのラム革のズボンと子供用のキルト、フード付きの乳児着を身につけ、クラブマークのついたウェリントンブーツを履き、首飾り、頭飾りをつけた、依然パー・プトロメイの所有者であったこの凝った衣装の北欧人がまた、デンマーク北大通り近くにあるヘングスターサーカス（ちなみに、このショーは、この州で行われるものの中で最も楽しめるもので、夜の部の子供料金が半額だった土曜日に、私は初めて幼い者たちをそこに連れて行った。(530) この時てんかん患者が亀背の者のまねをしたり、酔っぱらいが聾啞者のまねをしてからかったりしていた)の共同経営者だということ、またその興行師が警察署に訴え出て、移送令状【上級裁判所が下級裁判所に正式記録の提出を命じる令状】の発行を申し入れ、自分が3人部屋を設けた後、日曜新聞に真っ赤な彼のヌード写真が載っているのを見たこの町の女たちが、それ以来ずっとこの男とその魅力を追い求め、空き室【彼とセックスするための場所】の提供を願って自分を困らせていると悪態をつけて叫んだことだ。また彼が、あの卑劣漢が、聖パトリック教会の手洗い所に住む、耳も聞こえなければ口もきけない、郵便配達人である自分の息子に、ローマン・カトリック教徒であることをやめさせ、席を立たせて、パジャマだけの姿で外出させ、モーグ・アンド・クルージュ店でいつもの黒ビールを1ビン買ってこさせ、消防士のヘルメットをかぶった妻の前にそれを置かせ、店である売春宿の方をうまくやっておいてくれと彼女に言うようそそのかしたのか。一方その間、彼と彼の愛人はダブリンの警察署の鼻先の路上で派手な服を着て大騒ぎしていたそうだが。これらのことについて糾弾してくれないかね。その途を準備してもらいたい！ あの助け手の紳士はどこにいるのか。あの軍事航空技術者は。腰に警棒を差し、北部アイルランド語の辞書をたよりとして、あのごろつきについてのすべてを報告したあの紳士は。さまよえるオランダ人船長ルーフ・サッカサインは。そして彼から彼女の話聞いてくれ。あの女々しい若者、サッカーソンを呼び戻せ！ エリックの偉大なる相手を【エリックはワグナーの歌劇『さまよえるオランダ人』中のオランダ人船長の恋敵】。サッカーソン！仲間に加わりたまえ！

——【サッカーソンとなって】4人がさまよわせた昼間からの怠け者は市場を緑化する。強い酒は彼女のランを追い求める欲望をふやけさせる。

——彼女のランを追い求めるだと！ 畜生、その所有権が彼女にあることを奴は十分知っているのに！ 彼女の靴を自分の肩の上ののせて、何の警告もなしに奴がそのスカートのみだや編み目を持ち上げた時、それは見る者にとってひどく苦痛なものだ。神聖なるプロテスタント精神

にとつての恥辱だ！ 2つのハンドルのついた【スカートを持ち上げるための】傘をもつなど、アダム以前の人間の存在を信じる忌々しい奴だ！ 私の反吐の元を探ってやるぞ。

——ワルブルギスの夜だ！ これがお前の神聖視する都市なのかね。ノーガンサンは！ 我々は巨匠の変節を願わなければならないのかね。ティックノック城のマダム、ロザリオのキティーを呼びなさい。女怪にへりくだらせなさい、そうしたあり得ないことを彼の富は可能にしたのだ！ 彼は階段の一番上で自分に対する願望を彼女に強めさせた料理人【居酒屋の主人のこと？】だ。彼女は底の知れない女だ。その女は。

——【キティーとなって】人当たりの良い悪意ある我らの父に。(531)、同じ血統をもつ私たちの愛する者であり、過ちを犯して、猫背の日々を送ることとなった我らの父に。この教皇の知性をもっている者に告白の祈りを与えたまえ。トレント会議で彼の賛美歌集が許可されたように。ゲートルを身につけた彼のブロンズ像をパンで満たせ。鈍重なる嘲笑をうけたナンバー50に。いなくなった時が最善の巨匠。私はキッチンテーブルの上で彼のデルタ状の肩の筋肉をマッサージした。アイロンをかける時に使うズック布を通して、ガチョウの脂肪のような、しし締まりのない柔らかい肉塊たる彼の延べ棒【ペニス】をマッサージすると、彼は煮込まれたように顔が真っ赤になり、目玉はトロンとなって、ケトルドラム【太鼓腹】からは湯気が出て、それはモカのコーヒー豆を焙煎する時のようにゴロゴロ音を立てた。私は仮病使いの背中を搔いてやればよかった。後生だから、あなたの家長面の鼻を私の花束からどけてよ。もし見知らぬ人が、あなたがフライパンで私を押しつぶそうとしているのを見ていたなら！ 心の女王として、あなたは私を思い通りにしようとするのね。そうするのはあなたくらいなものよ。ロートレックがウェックスフォードのアトリエで描いた、洗練されしなやかなカッティ・ラナー【バレリーナ】のように踊っている、胸にブローチを着け、ブラウスの下にパッドを入れ、羊の脚形のスリーブと新しい長いたるみを見せている私の絵を、彼が心を燃え立たせながら見ていた時、彼の舌と唇はニカワで貼付けられているかのように閉じられていた。動かしてみて！ 私の向こうずねね。ここに私のお尻と太ももがあって、これはメートル単位で計る私のペチコートよ。動かして！ これは何だろう。動かして！ そしてそれは？「流し台のフライパン」やら、「足の裏をあげたシュシー」やら、長靴を履いた猫が出てくる「キリギリス」などからの場が演じられるロミオロ・フルッリーニの蚤のバントマイムで踊っている私ほどにきれいな私を、彼は1度も見たことがなかった。この時私は打ち解けた淑女らしく、気取ってルックロックとかクワンクワンとかキャンキャンとかポツタポツとかパンパンとかキックキックカックとかいうリズムに乗って、足を蹴って踊り始めた、本当よ。ニガハッ

カの飴をなめ【咳を静めるために】、黒ビールを揺らしなさい。ジョッキ一杯に満たされたビールを飲んで酔って楽しみなさい。

—— なにかもやめてくれ！ スポンサー提供番組だ。終わりにしてくれ。大将、フィネガンのことを気にしたり、彼についてのつまらない事柄をいじくるのはもうたくさんだ。知事さんよ、あらゆる疑惑を払拭するために最終投票を行ってくれ。大気の精や火蛇やあらゆるいたずら坊主やトリトンに賭けて、本気で私はドライバーズショットにトップスピンをかけて、最後に今話を覆してやる。言葉になるであろう彼の考え方や、今までに行きとなってきた彼の生き方を。そして、あの大司教管轄区に住む最初の家父長マクルの聖なる子供の手を借りても、そうしてやるつもりだ。あのヤコブ【シェム】の手紙や、このヨハネ【ショーン】のデートの相手を見いだすためなら、たとえまず初めに、タルタロスの穴から吃音者たちが住む一角に至るまで、トランシルベニアにいるあらゆる人間の仮面を引きはがさなければならなくともそうしてやるつもりだ。王の正義、知事閣下の正義、そして同様、(532) 昔からの仲間であるキャリオン【アルスターの保守党员、オスカー・ワイルドの敵】とともに、大人物中の大人物であるこの教会所有地の管理人自身の正義の鉄槌を下してやるために！ 今履いているベルシャのスリッパなど脱ぎ捨てろ！ あのフィンを探せ！ あの罪人はよれよれのシーツの下にいる。ファ、フェ、フィ、フォ、ファム【ファムはジョージ4世のこと】め！ アア、嗚れ声で鳴くがいい、悪の行為者よ。立て、亡霊の如き者よ！ お前が生きる限り、お前以外の人物がいることはないのだ。いなくなってくれ！

—— 【HCE となって】皆さん、アダムステルダムによるこそ！ 永遠の都市に、何とも素晴らしい！ 再び我々はここにいるのだ。私は年代記からはずれているくらいに遠い昔の権力者たち、シトリック・シルケンピアド1世（あるいは、オラフ・マックオースカルフ3世だろうか）の時代の古い法の下でそそ育てられてきた。しかし、皆さん、実は実際はラスファーマムの土砦であれ、ドラムコンドラの峰であれ、ドルキーの草原であれ、モンクスタウンの町中であれ、立派な皇帝から犯罪人までの人間たちが、このように shall や will を使って、私のしゃべる美しいアングロサクソンの古英語を話している世界の至るところで、私は清らかに生きている者として、聖人にも罪人にも知られているのだ。そして実際、私が可能な限り清らかな生活を送っているということ、また私がクリケットの試合で常にアウトにならないでいるが故に、得点率をまともにあげているということを一般大衆は非常に高く評価していると、自分の命に賭けて私は思う。生まれてこの方、歌に歌われる禁断の木の実、若いガガールフフレンドなる人物相手に、そしてまたキシレフのあばずれのいる庭園や軽薄な少女のいるジグロットの丘で、女の親類たち相手に、口髭氏

が犯した様な、聖職者にとって違法行為となる姦通の罪を犯したことは今まで1度もない。また犯すだけの金銭的余裕もない。彼女のある1箇所に触りたくなくとも。また激しい欲望に駆られ、彼女の未熟なところに対して激しい欲望に駆られるとしても。言う必要もないことだが、これらの売春婦の娘たちは軽装なので、こういったことをすれば、バビル・マーケットにおける私の評判は非常に困ったもの、あまりにもひどいものになるはずだ。しかし私の知人がご丁寧にも私に悟らせてくれたように、監獄や警察や判事の手を借りて、仕置人という名目で彼女を逮捕してもらった。こうしたことを彼女はほんのちょっとでも考えていたのだろうか。そして私自身に、実際地球上で最も成熟した妻を自分はももっていると言いきかせている。私の一連の昔のファッションモデルのような金髪の女性が出てくる夢の中では、彼女はこの地球上の全世界の花の中で、人の迷惑にならないようにふざけ回っている。まずスキナー小路から始まって。残念賞をもらいながら。容姿や微笑には賞をあげられるのだが、目立ってケチな貰い物の衣装であるオペラトップ【キャミソールの1種】を着た時の2つの乳房にハンディキャップがある。これは様々な場所で着用されている。何という代物だろう！ 私はこの種のものがほぼ本当は大好きだ。(533) 特にこのようなヘリオトロープ色のアイレット刺繍の奉仕を受け、その最も完璧な最高の香りを楽しんでいる間は。そこにおいて、私は彼女の過去のじゅじゅ純粋な美しさに、喜びに満ちた魂を浸すのだ。

彼女は今も今後も、神の目から見ても、美しさを最も保った完璧な私の妻だ。また【纏足をしている】中国の女性を除けば、他と比較にならないくらい最も小さな靴を履いている。この中国の女性たちは、陽気で、上品で、正直に心のうちを話す。彼女たちを推奨するのはよくないことだろうか。これが見習い時代の私の分析結果だった。そして、アア、ランベイ島およびドルキーの我々の個人的な聖職者、つまりその地域の司教は、常に悲しげな顔をして、リュートの弦のような、タビネットが生地となっている会衆者用肩マントを身につけ、辛い経験をした様々な人たちの心や感情の中に入って行き、奥の部屋で、何本かの指であるいはタラのような親指で接手をするのだが、私の清らかな人格について、彼は声に出して、あなた方に何らかのかなりの褒め言葉を口にするところがあるだろう。たとえ密かな行為が見つかったとしても。このように、こうした話が私の気を重くするとしても。実際私は彼女を我々の4本の柱が立っているところ【ベッド】に案内した（率直なる者よ、無気力で退屈している者よ、何故不安があるのだろうか）。どちらも途方もなく年老いたカストルッチ・シニアやデ・メロス【両者とも指揮者】の指揮の下、シカモアの堅材で出来た、どちらの記譜法でも対応出来るユーフォニューム【楽器の一種】を使ってミサ曲を歌いながら、グース・グリーン通りに面した、全く鳥かごのような素敵

な我々全員が集う我が家で。愛情の与える心の痛みをもった(まずマルコから、と彼らは言った。ヤレヤレ！ アア、はっきりと。そしてグレゴリーが前に、ヨハネがずっと後ろに。オヤオヤ、オヤオヤ！)、あの懐かしい小屋で。喜びをつかんだあのようなところはないし、あれほどいいところはどこにもない、そうした我々全員が集う我が家で。皆さん、あなた方も知っているように、あの角にある小さなファインドレイターズ教会や、そしてまたクークラックスタン団のカテキズムもその使徒信経の中でもつことを課している、子供の時から、大人しかつたあの人生のしょしょ初期のころから、私も十分気づいていたことだが、国教会の自由主義のためにもくろまれた青空学級に至るまでもっていた、幼い私の人生上の向上心の1つは、彼女によって、私の人生を創造してくれた、あの愛するすべてを癒してくれる人物によって、カリフがもっているようなあのベッドの中で、家父長的に確認されたのだ。天使ミカエルがうってつけの人物だ。ミカエルをサットンの後釜としてダブリンの市長に任じたまえ。そして実際、われわれのミカエルしかもつことが出来ないこのような彼の予知能力によって、偽りの習慣に陥っている(それは顕著なものだ)ここの住民たちに対し、彼らが迷妄に至って諍いを起こしたことが我々の耳にもたらされた時に、どんなに私がせせせ成長しているかを彼に語らせてもらいたい。祖国が呼んでいる。普通株として4シリング95ペンスは取るに足りないものだ。ショーンよ、シエムよ、時機が来たら言ってくれ。その時になったら。国内の株は不安定だ。リバプールの大きな豚は1ポンド4シリング2ペンスで困ったものだ。豚とバターを増やそう！ 申し訳ない！ ありがとう！ (534) 今日はいくらだけだ。やめることにしよう。皆さん、おやすみ。そしてメリークリスマス！ 新年の風習をたたえよう。ありがとう！

—— チックタック、チックタックと時は過ぎ行く。

—— 風は騒ぎ、雨は落ちる。

—— 哀れな牛というのが、彼の2つ目の姿だ。

—— 全く完全にどうしようもなく心が沈んでいる。

—— 平静が訪れた。大きな、大きな平静だ、告知者よ。このことは最も厳粛なことであり、実際に興味深い慰みである。絶対の真理なのだ。私は誓ってそうだと切り切る。これからお分かりになるだろうが、実際このように私が罪を犯したとする証拠は、根本的に文字通りスプーン1杯ほどにも無いと私は申し立てる。一番茶のキームンとラブサン【どちらも中国の紅茶】1杯分も。そして事態が決着していない私は、天にいる方々に対し、このフェニックス・パークについて述べられている汚らわしいささ39項目を否定し、正義の慈悲によって、つまり、すべての男と女がもっている慈悲によって、自分が永遠に不屈であり信頼に値することを証明することが出来る。ノリス、サウスビー、イエーツ、ウェストン各株式会社からその大事な顧客に至るまでの面々から受けたアドバイスの下、「尻にキスしろ」

小路にたむろするちち千鳥足の怠け者、即ち街のボトムリー【イギリスのジャーナリスト、暗にキャッドのことを言っている】(彼はベルトの位置が低いスーツを着、膝当てをしたニッカボッカをはき、ベルファースト産の指輪をはめた、青い目の大きな肉片で、その偽りの田舎じみた口調は(彼の職業はサンダーズ・ニューズ・レター紙及びポスト・オフィス・ディレクターの広告取りだ)ベルグラディアで最も嫌われており、彼は舗装工の言うことを信じようとはしない)による、私の比類無き大事な人、玉座につくほどのことも時々ある最も崇高な人格者に対する名誉毀損のひひ広まりに対し、ここ抗議前の警告を私は発する。この人物はいわば優雅に花を追いながら他人の生み出す美を盗もうとするスパイであり、礼拝堂とセルロイド芸術【写真】の模造者なのだ！ あなた方はあのような人物に会ったことがあるか。あのなならず者キャッドのことだ！ トムの店のタオルを手にして、彼奴はノース・ストランド通りを歩いていた。目は蛇の目だ！ 緑のオウムを絞め殺した奴だ！ 配偶者である妻に賭けて、実際そうなのだとは申し立てる。奴は私の唯一の出口をぐらつかせながらダブリンをあとしして行った。それ故奴の最近の動向を私は注意していた。シャーロック・ホームズが奴を探し求めている。みんなでくの坊だ。丸坊主になれ！ M兵士に呪いあれ！ 奴の悪辣さに呪いあれ！ 卑しい血で生まれた打ち捨てられた犬たち【アイルランド人のこと】のために、すねた表情でよ横たわっているこの滓の白人兵士に呪いあれ！ 貴族も絞首台塔に行け！ 奴の姦通の心に投げ槍を突き刺せ！ 今すぐにだ！ 我が淫売よ、ひっぱたけ！ 我が高級娼婦よ、つきまとえ！ 我が取るに足りない男に千鳥足でジグを踊らせよ！ 奴(535)の白い顔を二度と私に見せるな！ 巡り合わせで私の生誕ろる600周年の日、オーディンという奴が営む宿泊所の前の地獄門の近くで、悲しみの人バークソレド・フォン・ハナヒッグ氏(彼の身振りは独特である。私の叫びを模倣してみよ！ 今の我々のように、次にはあなたも！)が、ダブリンの市民が預けた最初の鍵である我々の最も気品ある人物であるこの閣下が、フェルディナント・アラバスターという名前の騎馬にまたがっておられた時(あなた方はノルウェーに行くのに軽い櫓をもつ必要はない。あらゆる戸口にそれを見いだすであろうからだ)、我が男の中の男、この偉大なる閣下に、上品に少女たちが彼を祝っている中、閣下が我が敷地を通っておられる最中に、ごちなく挨拶しながら私は急いでこのことを知らせたのであり、それは私の責務であったのだ。

あの切り裂きジャックはいったい誰なのか、この疑問がこの胸をあえて襲う。向こうにいるあの友人だ。誰かが我々4人と一緒にいたのだ。敵だった！ シャベる悪魔だった！ ランズエンド【コーンウォール州南西の岬】にいる一流の虚言者だった！ 狼だった！ 刺殺者であるお前にあの波止場で会うことにしよう！ そしてあの少女た

ち！ あのろくでなし！ 穏健な人間にはったりをかまさないうちに、病人にしようというのか。ペテン氏め！ あのネズミの住む家に這いずり回る、想像を絶する害虫め。歴史上最低の位置に属する！ 最も無意味で汚らわしい！ もう口にするのも嫌だ！ ペテロとパウロのためにも！ 将軍たちは打ちひしがれてしまう！ すべてが腐ってブタのように下品でブタの残飯になっている。もうたくさんだ！

— 君なのか、白髪頭君。

— 耳鳴りはするかね。

— スペリングミスのある受取証を渡してくれないか。

— 後生だからその魚を渡してくれ！

— 老いた白髪の者が再び語っているのだ。耳管を開け！ 哀れな白髪の冒涇者を哀れんでくれ！ 親愛なる失われた記憶よ、サラバだ！ 数多くの真の地獄を私が経験してきたと世間に伝えよ。どうか、淑女よ、私が見た中で最も冷たいこうした仕打ちを受けた哀れな O.W. 【オスカー・ワイルドのこと、ひいては HCE のこと】を哀れんでくれ。39年の歳月が経ち、私の髪の毛は霜に覆われ、記憶は減退し、肘には雪が吹き付け、耳は全く聞こえない。親愛なる淑女よ、その果実によって私の樹木を判断していただけないだろうか【最終的な結果によって物事は判断されるべきだということ】。私はあなたにその樹木から取って与え【旧約聖書創世記3章12節】、2種の匂いと、3つの食べ物を与えた。私の友人たちよ、私の最も高貴な友人たちよ、私の楽しげな花よ、私の木から落ち行くすべての果実よ。あらゆるところに泥にまみれた哀れな子供をもつ HCE を哀れんでくれ！

あの人物は伝達者、以前は連隊長だった。(536) 1月のリヴィエラ【富裕階級は1月にリヴィエラに行った】からやってきたセバステイアン【ワイルドは裁判のあとセバステイアン・メルモスと名乗った】という名の肉体化されていない霊は(彼は熱心に傾聴などしていない)、我が死の世界に追いやられた者たちからのメッセージを短い時間電話で語るかもしれない。少しばかり彼を元気づけ、未来のデートの相手との約束をとりつけてやろう。もしもし、我々に語ってくれ！ あの丘はどうなっているのか。彼は常に懐疑的だ！ 「真の不在」である我々の魂の存在も、奇跡の小麦の存在も、P.P. クウェンビー【アメリカの精神治療家】の魂の外科手術の存在も信じてはいない。哀れなことに、彼は自分の虚飾の舌に困惑しながら、かなり長い期間消化不良気味となっている。いつものことだ！ 哀れな幸運な罪過なのだ！ 尖塔よ(青銅製だ！)、我が悪臭漂う古い町の中心で、我がクレムリンで、我が郡で、我が目抜き通りで、彼の心の鐘を鳴らせ(ゴーンと！)！ 哀れみを与えるものを！ 哀れみを与えるものを！ ドン！ 私は彼のことを悲しく思う。私の悲しみよ！ アア、私は嘆いている！ 高貴な者たちと一緒に客として招かれるのに、痛みと叫び声を伴いながら気管支炎で死ぬのであ

う！ それ故豊かな過去を楽しく思い出しながら、思想の現れとなった高い白い山高帽をかぶり、鉄の杖で身を支え、ロイヤル・レッグ店で買った鹿色のメリヤスの靴下をはき、彼は大きな葉巻を吸って口1杯分の煙を吐き出していた。煙草の煙がこもる部屋でそのようにして、非常に注意深く彼女に対し夫の役割を果たしていた！(彼は鑑マッチで彼女を赤く照らし出したが、無駄な結果に終わっていた。)我々彼の孫や甥たちとともに、そこにいるほとんどの者が彼と彼の煙草の臭いや煙に包まれていたのだ。しかしオスカーが通うワイン酒場で、うまい澄んだ最上のビールをジョッキで彼に飲ませてやろう。閑静でいいところだ！彼の少年のような声は未だ抑揚が平坦で、彼の口は未だ兵士の着る緋色の服を身に着けている。とはいえ、彼の漂うような亜麻色の髪には、今は塩が降りかかっている。こうなってしまったのは、彼が牢獄に送られた理由が理由となっている。私には分かっている。それ故賞賛されている彼の奥深い言葉があるのだ。いつか彼についての第2の話を語ることがあるかもしれない。元気だ！ 元気を出せ！ その姿は、私の背負っている重荷を背負っている他の人物のようにみえる。そんなふうにはさせない。そんなことは出来ない。

さて、郷土の方、誇りをもって言うが、私は【公私】両面において私の過去を全部さらけ出した。第2段階として、法律に従い2ヶ月間だけの期間を与えてもらいたい。その間に私が最初に広めることは、王国の隅々の下級判事に対し、あるいはスキヴィニの法廷に対し、古の信頼出来る闇商人であり、私のために宣誓証言者してくれるゼロバブル・バレントーン、ヨナ・ホエリー、デターミンド・コドゥル、キューカンバー・アプライト等とともに、こうしたことが2度と起らないよう抗議することである。アア、我々のことを詩に読んでほしい！ 故国の荒々しい心の持ち主であるハル・ファガー【ハロルド・ハルハグルはノルウェーの初代王】として。私の名前は神聖視される。子供も生まれ、健康も得られる。楽しいことほどいいことはない。アア、見てくれ！(537) 営倉にいる鼻持ちならぬ者どもは【彼に】石を投げてはならない。彼の城は巨像のような館なのだ。ここで私はまさに真剣に、あなたたちに次のように明言するつもりだ。即ち、たとえあらゆる階層の人々からそしりを受けようとも、人の意に沿っていたこれまでの虚飾を排し、過去の誤謬から自分の身を清め、宗教改革を受け入れたジョージ・ブラウンのように、アイルランド人らしく、アヴォカ川沿いの今なお汚れを知らぬ人々の力を借りて、ケルト人に転換しようと思っている、ということである(しかしまず私は代理者として、私の古の祖先たちの身を清めなければならない)。そしてこの時、シギスモンド・ストルターフォースや、私の保護者であるラビン・ロブルースト、私のかかりつけの内科医ドクター・ラティー、守護者ローレンツ(アイルランドに勝利を！)等のように、あの哀れな浮浪者どもを西欧化し、彼らの国

のイギリス人にこびへつらう根性を啓蒙してやるつもりである。金は払わなければいけないものだ。私は、皆さん、かなりいい値段のみみみ水館の卸値を支払うし、またそれ相応ならば、このように、不適切な行為に対する法律で定められた罰金も支払う（それにポケット用ハンカチーフをも加えて出す）。でも実際のところ、私はすべての【こうした類いの】慣習を完全に打ち破らなければならない。戦争前に——今私のために置かれているように、この時ここに街の人々のためにウェリントンブーツがあったのだ——、ギルドのメンバーであり、私の4分の1の兄弟であり、私に代わって私のために稼いでくれることがあり、私の一部——そのように私には感じられたのだ——と私が名付けた我が友ピラップス氏と一緒に、ブリストル経由でアフリカの黒人モスクからやって来た無口の黒人女性ブランシェット・ブリュースタを所有権所有で安く買うことについて、大騒ぎを起こしたり、協力し合ったり、同意することなどなかったと、私自身が注文したすべてのスタウトを一気に飲んで口をぬぐいつつ、私は明言する。また彼女の中に私の4番目の体の部位を入れたりするようなことについても——このことは、聖書（この書が著作権を持つ）や店頭から除外された本（発禁になるのは全く妥当なことである）の数箇所に、その記述が許されると同様、再婚の場合にも許されることであるけれども、この売春婦に対して2スコットランドポンド、1ポラードコインあるいは1クロカードコイン、あるいは三つの石ころでも出せばこうしたことが出来ると考えると、私の感情はかかか過度に傷つくように思える——、私は否定する。フリッカの炎よ、ただマッチ箱のみを攻めたてている「硫黄なしマッチ」よ、彼女が女らしく神聖であることを無視して、もしこの病気持ちの黒人女の性器に私が欲情したならば、急いで攻めたててくれ。こうした話は漫画雑誌「モンズ・メグズ・マンズリー」に載るようなふざけた話になり、フィネガンズ・ウェイクの歌に毎回出てきて、ドニーブルックの市場にいる道化師たちに馬鹿にされてしまう。これはホッダーやコッカーの算数の本に見られる論理性を欠いた話である。(538) モネータ、即ちユノ【ジュピターの妻、最高女神】を参考に、あなた方が作り上げたすべて彼女についての許しがたい仮定の話だ！ 彼女がアイルランドのマリア・テレジアとなって、思いやりをもって解放されたとしても、私が救世主ロードヴィッチになっていようとも、恐ろしいほどに私は関心がない。私に関して言えば、さらに彼女が顔をココア色にして買い物についてしゃべっていても、何故無関心であってはならないのか、という堅固な考え方をとる。関心をもつなどあり得ないことなのだ！ 男でも女でもこのような物事をあれこれ話す人間の一言だって私は信じない。まさにつまらないことである！ 下らないことなのだ！ 市場でこういう奴隷女を転売したり、交換で借りたりしようとした場合には、誰かに助けてもらわなければならない。ブリストルにいた中で最高の黒

人だった。追い出すことなど出来なかった。オークションでは100パーセントの黒人だった。これは【黒人の女奴隷を性交渉の相手として購入すること】古代カルタゴに関わる中世の遺跡の中で我々が熱心に見てしまう、彼女たちの裸での生活や、あの汚らしい秘儀と全く同等の価値をもつ恐ろしいまでに残酷な話なのだ！ 不適切きわまりないものだ！ 古のロビンソン・クルーソーの話や、美しい汚れなき魂にふさわしくないものだ！ パンの上の1つの石であり、説教壇の上の2人の淋病患者であり、裏口で倒れ腐った3人の天然痘患者なのだ！ 犯罪者が得た1ペンス、6ペンス、3ペンスの硬貨分の価値もないものであり、貨幣製造所にある大量の金貨にもふさわしくないものである！ どうか神よ、私を助けたまえ。私は本気でこう言っている。

——我が紳士方！ 馬鹿馬鹿しい限りだ！ 心からそう言おう。彼女についてのあからさまな空想にはただただ笑ってしまう。下らない安物商品は人を呼ぶものだよ、マダム。同じことだ！ あれ【2人の女子】と同じことだ！ 私たちは毎日サケを食べるのに、生まれたばかりの奴を生きのまま食べるようにしよう、サア。ギャザー付きの網の目状の服を着た2人のバーゲン品漁りの女子、フィッシュブル通りから来たリジー・マイコックとリシー・マイコックが、夕星の残っている夜明けに排尿し、そしてそうした彼女たち魔女団の姿が私の目に入ったとしても、こうしたアムステルダムから来たみずばらしいガキどもと、私なりにどう接したらいいか知ろうとする気はないし、またあさましい尼さんたちや、彼女たちの末裔たちへの接し方についても、彼女たちのそばや、間や、下を這ってでも知ろうとするつもりはない。彼女たちの小難のあと私の大難が訪れるからだ。ここに私とよく似た者がいる。その男はカーロー州ですぬに傷を負った男だ。彼はデウカリオン【ギリシャ神話中の人物、ゼウスの起こした洪水を生き延び、人類の祖となる】だ。聞いたところだと、おそらくあなたには罪がないようだ。しかし我々はあなたがあの幼い者たちと一緒にいるところを見た。まさしくデウカリオンだ！ 悪臭が漂っている。「イブニング・タイムズ」は胸が悪くなるような醜聞紙ではあるが、【その記事によると】あなたはシュテファン寺院で警官に石を投げたのではないか。もう一度言うが、まさしくデウカリオンだ！ 私は彼のあの貧弱なほほが好きだった！ 吃音も！ 何とつまらないいたずらをするのか！ 告発を免れられるように、私は白い帽子をかぶって誓い【ユダヤ人の習慣】、ロデリック王【アイルランドの最後の王】の最大の石柱のそばにいてかのように、異教徒とちっぽけなキリスト教徒との間で自由を享受しつつ、自分の意志を守った場所で自分の意志を守っていく。(539) わが両耳とジュジュジュネーバババイブルに従いながら。そして帽子をかぶり、我々の1級の、石で出来た幅の広い高く屹立した記念碑のそばで、ありのままの私の美德を証言しよう。あなたたちに



言っておいた方がいいことは、正直に言って、エアウィッカーの名誉に賭けて、実際こうなのだとか、今にこういう人物が出てくるとか言って、一般大衆が崇め奉るあの人気のある大陸の傑出した詩人、ダンテ、ゲーテ、シェイクスピア株式会社の言葉の価値を私は考えているということだ。我がトランプのいかさま師が以前その技を伝授されたのと同じように、私は最高の巨匠の教育を受けてきたのだ。彼の知っていた大衆のように。そして、出不精なあなた方はご存知だろうか。正直なところ、残念なことに偶然その恩恵を得られなかったとしても、罪を犯し、かんしゃくを起こし、困惑し、喧嘩早くなりながらも、私は全力を尽くして、自分の注意深さを吉とするということ。私は自分が金脈やそういった類のものをスペイン南部に所有していると聞かされてきた。ホーホーホーホー！ そしてまた自分の心が種々雑多な衣服を着てきたことで、自分がどれほどひどい自己嫌悪に陥っているか（本当のことを言って）、どれほど悔いているか、私は語つただろうか。こう言おう。酒場の者たちよ、興味深いことだが、私は忸怩たる思いをしながらも、再びアイルランドの土地を求めて、何人もが溺れているダブリンという川を、輪状の尻ではなく、方向を決める尻を3度飛び込ませて越え、武器使用の権利によって帝国の旗を掲げ、星と霧の下、所持品一切取りまとめ、急いでプリストル的選択方法で【ヘンリー2世はダブリンをプリストルの市民に与えた】、ここソルレル【ダブリンにある、商人のホールとして建てられた中世の建物】に居を構えたのだ。というのも、そこは平均的な女とホームレスとなった男にふさわしいところであり、そこでは見知らぬ人間や敵の中で、また数々の小区画の土地の中で、農役的土地所有形態に基づく共同体がなされていたからだ。【それがあつたダブリンは】ポプリン織りの町、その後フォート・ダンロップ【当時の最新型のタイヤの名前】の町となった町で、当時海に面し、全体がセルボニアの沼ようになっていたが、今は斜面となった、外壁状の柵のついた頑丈な防壁に囲まれ、陸軍元帥の征服の基に築かれた、傷を受けたアボットとウォーレン【の両市長】がいた、クロンターフの虐殺が昔あつた、きわめて広大な都市となったのだ。この都市が出来上がった年を、私は驚異の年と呼ぶ。歴代の国王殿下、アーバン1世、チャールズ・チャップリン、愛されたヘンリー。憎まれ役のヘンリー、こうした人物の庇護の下、この地域は広がった（ヴェンツェスラス1世の刀は私のものであり、ブランデンブルク伯のプロシャ製の杖も私のものだ）。そしてこのダブリンで初めて私の在職権と定住の労苦とが、女と税と借金という重荷を背負いながらも、カラスのフローキを私の確かな導き手として始まったのだ。私がこのようにダブリンに居住して以来、飢餓は、イギリスによる苦難、疫病、2つの歯をもつイナゴ、(540) あらゆる種類の蛇とともに、多くの国民が一体化したこの国から姿を消し、皆無となった。そして行動に抑制の利かない、悪名高き邪悪な住民は

私たちの登記簿からいなくなった。こうした我々の都市の状況はあらゆる面で喜ばしく、快適で健康的である。もし丘を越えようとするならば、その丘は遠く離れたところにある訳ではない。もし草原を横切ろうとするならば、それはあらゆる箇所にある。もし新鮮な水を喜ばしく思うならば、プトレミー・ザ・リブニア・ラビアと呼ばれる川が付近を勢いよく流れている。もし見ようと思うならば手近にある。注意してみよ！

—— ドロムコリハーでお好きなことをおやり下さい！

—— 美しいドロムコリハーにいらっしやい！

—— まず初めにドロムコリハーにご訪問下さい！

—— ドロムコリハーをごらん下さい。その後ムーニス酒場へどうぞ。

—— 事態は以前と同じではない。少しの間概観してみることしよう。明言しよう！ のぞ！ 覗いてみよう！ 話してみよう！ カケスが鳴いていたところでは、今口笛が吹かれている。罪人が絞め殺されたこのタイバーン執行所は、今はマーブル・アーチとなっている。この場所にバスが止まり、この場所で私は買い物をする。この場所をあなたは見、この場所でああなたは休んでいる。私にしてみれば、あなたは眠れる巨人だ。これからはあなたはそうであろう！ これからはあなた方はそうであろう！ これからも彼らもそうであろう！ 高々と頭を私が掲げる時から、私の運命である屈辱の時まで。最古参のモーゼの終焉はこの秩序全体の始まりとなる。それ故以前の執行吏の最後の者は、現在の執行長官の最初の者となろう。すべての新たな高まりとなるのだ。ラド・ネグル【ブカレストの創設者】は町に戻っているかも知れないが、菩提樹の木の下で、その警官たちは1人1人彼らの恋人となる女性と出会うのだ。貴族にしても紳士にしても、港湾労働者にしても画廊関係者にしても、海辺のピチピチした若い女性にしても、落ち着きのないおしゃべりな年増の女にしても、囚人にしてもいかさま御者にしても、社会の柱となる人物にしても、ロザミア【イギリスの新聞王】のような人物の家への押し売りにしても。町の人々の従順さは町の至福をもたらしている。我々の金融と政治と経済は、良きジャック・シェパード【犯罪者で絞首刑になった】がいても安全な状態にある。我々の生活は、荒くれ者で大悪人のジョナサン【ジョナサン・ワイルドは犯罪者で絞首刑になった】のような人物がいても安定している。ずっと非常に自由な状態にいるのだ！ 最高の者たちよ、ありがとう！ ホッテントット族は少なくなった。ブルー・ブレイズ・デヴィル・ボブ【昔のゴルウェイの戦士】は時代遅れとなり、触発引金のニックも全く今の時代には合わない。恋人との出会いと同じくらい男色はまれになり、癩病患者は減った。無教育な者はアエスクラピウス【古代ローマの医薬と医術の神】の妻のように疑いの目で見られている。真昼の食事の席で我が淑女に自分を発見させよ。ハイド・パークにいる我が淑女は若いドレスメーカーを求めている。万事非常に

うまくいっている。謹厳な雰囲気のあるあなた、あなたに乾杯！ 蛭君、よく照らしたまえ！ 新米水夫君、万々に備えよ！ 海の男たちよ、我々は君たちの女中と奥さんを祝福する。(541) 私は7つの丘をきわめて大まかな中心点として、素晴らしい7つの海を、アイルランドの起源からある周辺として見渡したのだが、これがあなたが丘から見渡す眺望なのだ。ブレイド・ヒルズ、ブラックフォード・ヒル、カルトン・ヒル、リバトン・ヒル、クレイグロックハート・ヒル、コーストファイブ・ヒル、アーサーズ・シートだ。セント・ニコラス・ウィズイン教会の指導書は私の導き手であり、セント・ミシヤン教会のあたりに私はドームを建てた。その教会の巨大な塔のそばに、私の価値ある建物がそびえ立ち、その尖塔が空を貫き、小さな丸い屋根の鐘楼には雲がかかっている。そして更に事態は次のようになった。資金を調達し輸入業を営み私は金持ちになった。莫大な財産を得て比類のない富豪になった。大君主として税を徴収する私の手段は城壁税や船荷税の徴収である。そして家賃や施しや貢ぎに支出される。私は脳裏に浮かんだ衝撃的な事柄【金儲けの方法】にただただ心を奪われ、ついには自分をせき立て、実績が得られるとなおさらそうになった。その実績とはゲンナマによる賭博場の常連になることであり、負債を抱えた者たち相手の質屋の女将のようになることである。異国人のオランダ人がユグノーになって我々に敵対したが、私はセント・バーソロミュー祝祭日に面と向かって彼らに対峙した。軍隊が（注目せよ！）攻め寄せてきたが、私は（見よ！）ライオンの住処の中のダニエルのように立ち上がった。ベルファーストの住民は私をうらやみ、コークの住民は感謝した。素晴らしい！ 私はブライアン・ボルー王にスカンジナビア人と戦うように進言した。彼らは皆意気地なしなのだから。戦え！ 徹底的に！ もし彼らが目玉の奥に憤りを示していたならば、彼らは前歯に傷を受けたのだ。宴はばか騒ぎだった。この要塞でも戦いがあった。私はウェリントン公爵に使いをやり、ロイ・シャッカルトンの足に足かせをはめさせた。ウォータールー、ウォータールー、ウォータールー、ここは嘆きに満ちている！ 法という元帥の下で、戦争という法の下で、ピンポン玉のように飛び交う鉛の弾が私の心を安らかにしてくれるまで私は耐えた。私はアクロポリスで宴を開き、嘲笑した者の死体に鉄拳を食らわせた。郊外を美しい景色にしたが、心を復讐の怒りに満ちた者には見張りを置いた。乞食には風呂とベッドを用意し、片目を失った者には治癒を与えた。ソールズベリーの平原で何もかも私が満足するまで聞かせてやった者のうち、誰がその話を語ることが出来るだろうか。辺りの様子を窺っていたあの3人の覗き屋たちと、あの2人のことについて！ 髪の毛の滑らかな美しい女性たちのために、私はナイトドレスを紡いでやり、眠っている野獣には構わずにおいた。麝香が漂う中でざわめきが始まったが、ミュージックが勝ち誇り、野生の動物には死が運命づけられた。西側の民か

らは分水が立てるような甘美な音が満ちてきたが、東側の谷からはオランウータンの争う声があった。害虫の通りであるサックヴィル通りにいる者すべてが度々恐怖を感じていたが、しかし野生動物のいたメクレンバーグ通り【当時の売春街】は改善された通りとなった。(542) ジョン・ホーキンスが導き入れたジャガイモの農産物から、迅速に私は結核菌を取り出し、たんまりよそったアイリッシュシチューからは脚気を追い出した。私は我が自由な国の民が、カラッハの競馬場で自由になっているのを耳にした。ウェリントン記念碑の前で我が忠実なる国民が敬意を表しているとしても。私は丸い木で出来た浴槽に雨のごとくラガーをたっぷり入れ、ゴーゴーと吠え立てさせながら、歓声とざわめきとともに、楡の木の送水管を通してそれを送った。外気のオゾンを好む故、バザンドーン発の市街電車で、ケメンダインの自分のホテルまでそのラガーを運んだ。勢いよく噴水のようにそれを吹き出させ、次から次へと飲んで、素面のフィリップの状態から酔っぱらって昼間もグデングデンになってしまった。ラガーの気が抜けると、飲むことに疲れてしまい、私は普通よりも濃い煮出しの紅茶を飲んだ。酔のような酸っぱいブドウも酔いを醒ました！ コーヒーカップで紅茶を飲んでいる時の私の表情を考えた時、私のことを馬鹿にしないように心してもらえないか。用意周到に御者溜まりで料金を払う時のように心してもらいたい。それ故十分に用心せよ！ というのも、私は元日のことをしっかりと考える時には、【その年の】クリスマスの最後のことまで目配りをするほど慎重だからだ。民の土台である地方行政官でありながら生活保護費を受け取っている私は、貧乏な者と監察役の味方だ。【政治集会の場である】フォスター・フォーラムでは友愛の情を示した。すると敵の人たちも私の愚かさを彼らの聡明さと同じくらい好ましいと感じてくれた。女性の婦人参政権論者や良心的兵役拒否者は、何とはなしに私の話に引きつけられたのだが、目立った吸引力を持つ私の溢れ出る言葉は、マザー・マクリーやアンチパーネル派の連中の戯言や支離滅裂な発言をくすぶらせた。フレッチャーやフレミングといった姓の、仲間内でうるさくガーガーと鳴くこのエリザベスさんたちは、彼女たちの黄金の宝物である私に質問を浴びせかけたので、私は臆せず答えてやった。淑女方、皆様に応じてくれる方々の元へどうぞ。すると淑女がおっしゃるには、卑しい男たちの白目が見える近さになるまで銃を撃ってはいけないわよ！ ミスター答えは次のようなものであった。若いのを連れてこい、若い娘を、若いのを連れてこいよ！ 喫茶店ソリマンという神の家に、私は肥満体の彼女らをつなぎ止めた。パリジャンたちを牢に閉じ込め鍵をかけ、きわめて侮蔑的に過剰に太らせたのであった。ジャブ社製のビスケットを食べる者たちにはビスケットを1箱与え、食べ疲れた者たちにはポタージュとパンを出した。わずかな分割払いの形で絶えず少しずつ払いながら彼女らに惜しみなく出してやったのだ。その一方

で、商人から買った牛の首回りの肉とともに、スレート製の皿に彼女らの数日分の粉末食品をのせて、全部出してやった。私は悲嘆にくれながらジンジャーブレッドを求めて歩き回った。また「お碗に乗ったピリー」【昔ダブリンにいた殺人者である乞食のあだ名】のように何か食べるものはないかと茂みの中を歩いた。私の心は人間性にあふれている故、舞踏会に飽きた者たちの気分を新たにするために可愛い娘たちを送り込んだ。(543)そして次に、【「お碗に乗ったピリー」が犯した殺人ではなく】都会的な丁寧さを2倍にし、慈善的精神を最大限に発揮して、人間性がないということでの卑しい男たちを貶めたのだ。クリケットのスクエア・レッグ【打者の真後ろの守備位置】の方向に強打すると、球は境界線を越えてポタニー・ベイ【トリニティー・カレッジの中庭】へと達し私は24得点をあげた。一方ヤンキーたちはアンパイアを小突いていた。私はとと匿名の数々の手紙と、シンボルとしての私のモニュメントを建てたいという内容の、詩がいっぱい書いてある、広く集められた署名のついた請願書を受け取った。また最も新鮮な聖歌隊の少年たちと、相手を魅了するような雑談をしてきた。それ故彼らは誕生日を祝う歌を歌うために全員で私を訪問している。また秘密裡のうちに建物をたた建てれば建てるほど、それはますます公然と宮殿風になった。一同注目！ここに横になってくれ！私が素晴らしい小さな家を真夜中に建てると、朝にはそれはマッシュルームのような家々に取り囲まれているのだ。自由に休んで感謝せよ。ありがたいことだ。私は野に【豪華に】咲く百合のことを考えた。そして自分の栄光をシバの女王に明かしたのだ。そして次の件もある。オックスマンタウンにある私の邸宅の領地からソー・ステイン、正確にはトマス通りの私の邸宅の領地までにいる、またホーガン・プレイスからあのイギリス人のウィリアムの家までにいる、このお嬢さん、私の娘たち、これらの男たち、私の息子、レイクスリップの男爵領にいるロンドン子のあの男、郷土や郊外の住民、農奴や狂信者、気取って歩くジョージ、ふんぞり返って歩くマック、むさ苦しいジェイムズ、面白みの無いジョーンズ、主人を敬いきわめて忠誠心の強い血色のいいメイドと憂鬱な小作人、質札を受け取り、立派な家には家族があふれんばかりにいて、家具がこざれいではあるが皆無と言っていいほどに少なく、気品があり、家族全体が毎日ミサに行き、バター付きパンに死ぬほどうんざりしており、いつか市民軍に入るであろう、ドイツの物理学書を読んで心の中にストレスを抱え、もっと気品がある他の8世帯とクローゼットを共有し、教会のありがたい救援基金を受け取っている、こうした人物全員、きわめて気品があり、モンゴメリー通り【売春街】においていつものことを繰り返して終わらせることで人生の再出発を計ろうとしており、借金返済不履行用刑務所から清々しく頭を丸めて出てきた賃金労働者、その長男はミサ仕えなどする気はないが天上におわす実力者についての切り抜きは熟読し、勝手口の無

い一見上品そうな2部屋住宅に住んでいる。色のあせたカーテンをほしがっている、金で雇われた骸骨のようなくず屋。彼の家の階段は特に気品のある客がいて絶えず電気がつけばなしになっており、家はほこりに埋もれゴミに邪魔され、火事となったギネス蒸溜所のように、酒に積極的なだらしのない妻をもち、自分自身のために商売を営み、一部上品なところもあるであろう10番目の私生児が生まれることになっており、通信教育を受けていて、騒ぎを起こして仕事を辞め、(544)謁見会で今は亡きゼットランド侯爵に両方の頬をキスしてもらったことがあり、一面にひどく落書きしてあるクローゼットをかつては気品のあった他の11人の落書き者と共有し、開くとバルト海料理の匂いが鼻につんとくる玄関の家に住み、女に対して不可能なことを試みて、それ故隣人に迷惑をかけ、家に引き返してみるとそこには民間の礼拝堂が占領していて、4日に1回は引越しをする、彼はこうした人物なのだ。特に治癒の見込みのない最も気品ある患者1号、いびきが響き渡っている家の中を歩いて彼の糞尿を片付けなければいけない、エキセントリックな海軍将校、彼はあまり落ち着いた人間で、毎週教会の番人をうれしがって勤め、ドアの前の、踏み台と認知されている茂みの切り株の上で外国の絵入り雑誌を読み笑っている。リュウマチにかかっている未亡人と雑役婦たち、この雑役婦たちは品性に疑わしいところがあり、苦悩に苛まれ、蔑まれ、ののしられ、その道具は高過ぎる値で質屋に入っており無保険である。改心して博愛主義になった人物、うまくいきそうな時にはいつでも、灰溜め穴を破損したことに対して小言を言うのに、社会から見捨てられた人間を持ち出す、まじめな学生は法廷弁護士になる土壇場の猛勉強をしている、床は付き添いのいない老いた完璧に品のいい聖職者にとっては危ない、多くの縁のそろっていない神聖な書籍は目立った存在で、その最も近いところにある水道の蛇口は200年間水が漏れている、鶏肉と瓶に入ったスグリのジャムがたびたびテーブルの上に乗っている、召使いは12ヶ月間ブーツを脱いでいない、外目には品のいい幼い子供はピアノをハンマーで打つよう教育されている、時々高い身分の肩書きのある仲間から連絡がある、1フィートのほこりが欄干とひびの入った壁の間にたまっている、目立って品のいい妻はスツールをきれいにし、仕事もせず絶えずぶらぶら過ごしている者、妻が同意すれば矯正すべきだし、屋根には嘆かわしくも亀裂が入っており、クラレット保存のための地下室はレオの教皇就任以来蜘蛛の巣だらけ、軍事教練用のズボンをはき、まれにしかない仏像を集め、甘えん坊でしかない不潔な未成年の者同士引き離さなければならず、1ポンド3ペンスで熱病患者の看病をし、あらゆる点で品のあふれる2つのテラスをもっている(背中合わせにコンクリートブロックで出来ている)、おそらく判断力を欠いているであろう害を及ぼさない痴愚者、毎日曜日にはソーセージを食べ、8人の召使いがいて、その部屋からの景観は行動が

芳しくない者たちが小道を通ることで損なわれており、朝寝坊の息子たちは暗くなるとすぐに妹たちと出かけてしまい、今までに海を見たことが一度もなく、衣類の入った彼女の11個のカバンを常にもって旅行し、気品の極致である腹を空かせた猫が取り残されて向かっ腹を立てており、植民地での勤めのあとは休み、工場で働き、多くの女性支援者は失望し、カロリーはもっぱらラウンダリー社製のチョコレートと茹で団子でとって、1月中及び2月半期は1個のサンライト石鹸が彼ら全員の役に立ち、V・ド・V一家は(動物の餌を扱っている)5階建て2戸建て住宅に住んでいるが、(545)滅多に家賃を支払わない商人であり、友達の連帯保証人になったがその友達は逃げてしまい、14軒の同じような平屋の家と、一部の下宿屋よりは品があるが評判の良くない1軒の下宿屋と、ブランドティー定期購入者の未亡人のみ使用を許されるペンションと同じクローゼットを共有しており、義理の父親からシルクハットを相続し、このことが人の口に上ったことはないが家政の長であり、彼らの住み方は奇妙で、売春の斡旋をしているという噂が立っており、追い出されていない最後の四人の入居者で、心を通わせているのは仲間内だけで、品位あることを目指したがうまくいかず、大きな壁穴からはネズミが飛び出し、ウガンダの族長から授かった勲章を鍵のかかった象牙色の小箱に入れ、祖母はアルコールが原因の弱視が進んでいて、グズマンズ・フィールド【ロンドンで最も人口密度が高い地区】の鼻つまみ者で、尊敬され、品位があり、この上なく品位があり、とはいえ、彼らが心から存在を認めているものは、おそらく私が予測出来た恐怖であり、こうした者たち全員を、彼ら全員を来させよ、彼らは私の隷農なのだ。登録証を出して、私は彼らに土地使用料を払わせてきた。それ故私はこれまで意を決して厳しく命令してきたように、これからも意を決して次のように厳しく命令するつもりだ。つまり、王としての言葉で、いかめしい印章を押して、彼らのはるか以前の先祖代々からはるか先の子々孫々に至るまで、誰にも阻害されることなく私のために、私の後継者のために、しっかりと、目立たずに、十分に、正直に、ブリストルの人たちが、ブリストルという都市が、ブリストルで、彼らの都市の中の州で、私の土地全体でもっているすべての権利と自由の慣習をもって、ここに居住しここに住み続けよ、と命令するのだ。この点に関して私の証拠物件はナイフと嗅ぎタバコ入れた。農場の使用料金も。敗残者たる我々に報復なきよう。

長い間苦闘し、私は莫大な数の都市の奴隷状態にあった住民について判断を下してきた。見よ、彼らの安らぎの中に私は自分の輝かしさを見てきた。そしてあちこちをわたり行く商人たちは、この国で私についてのほら話を吹聴してきた。朝の屋根裏のベッドの中で、夜の間に地下室にこうした脅迫者たちを閉じ込めてやればよかったと思う。権力の座にある時、私はこうした問題について心穏やかにし

ていたが、夜の最も暗い通りで、彼らを見事にやっつけてやった。心の中で私はあばずれの売春婦どもを私自身が作った法廷に出廷させ、私の敷地内にある裁判所で彼女たちに対して判決を下したのだ。ガイ・ホスピタルでは彼女たちは包帯を巻かれ、フォークではむちを打たれ、ゴメスのような人物にとってのおもちゃに、リンチのような人物にとっての慰み者となるようにしたのだ。もし私が堅実な立法者としての尊厳をもっているならば、各施設を建設することによって社会を変革した。街道や側道を広く行き渡らせ、地溝のある野には下水道をあちこちに巡らし、そしてその下水を集めた。シェリダン・サークルでは私の才覚を再び発揮させ、困り者の子供たちのいるブラック・ピッツ通りでは彼らに仕置きを与えた。(櫛の木のような固い心の持ち主よ、安らかに憩い給え！(546)レナップ人【禁酒をし、荒野でテント生活をした聖書中の人々】となれ！土をシャツとし、松を経帷子とせよ、目覚めるな、歩くことなかれ！モルグで押し黙っていよ！)高貴であり最高権力者たる我が君主Vは、権限開示令状にも彼の偉大さが記されているのだが、私を敬い、正式な名前の脇役である愛称(これをささやいてみよ！)を私に下させた。これらは私の上流階級としての紋章となろう。その盾型の紋章には2匹の若い魚が描かれ、懸命にヒレをパタパタと動かし、衣服を身につけることなく、黒い肌着と金色のズボン下を着ていた。盾心【盾の中央につけた金属製の鉢】には垂れ下がった黄金虫が描かれ、一部フェス【盾の3分の1の幅の横帯】のようになっていて、左側は飾り立てられ、その黄金虫の抜け殻は自然の色合いとなっている。下の第3の紋地には槍騎兵が描かれ、鞘に納まっていない柄を揺らし、その武器をX形十字に交差させ、緑色に待ち伏せの姿勢をとっている。題銘は開封勅許状風のもので、HCEを表す「昨日、明日、今日」であった。古めかしい土地からより古めかしい気質の土地へと移動し、不安に苛まれ心がバラバラになり、全くの日陰者となっている私が、本質的に集団婚の最初の世代なのかどうか問うならば、また、ウーゼル・ガレー号【17世紀のアイルランドの商船】の中で生まれ、それに乗って、イナゴの国から雲に導かれて【アイルランドに】やってきた私が、互いに結びついている3人のオーバーコートを着た者たちと、一塊になって生きてきた2人のペチコートをつけた者たちのチームワークの大量生産品になり、また二重三重に困難な状況に陥り、丸裸にされ完全にうずくまってしまったのかどうか問うならば、また、最も確かなことは、猿と海の魚が合わさったフィジー諸島の人間のようなフェニアン(フェニアン)の服を着せられ、暗がり、創造という私の美德と、将来の明るさという恩恵と、生来もっている自由人としての旅人の権利と、母なる教会の内なる光とに囲まれながら、私にとって非常にふさわしいやり方で、私が進むべき道を選んだと主張しつつ、同時に選んだことを否定しているということかと問うならば、それは意味のないことであろう。ついには

夜明けが来て、暗闇は立ち去るのだ。フン、事態はこのようになるのだ。まさに！ 本当に！ その時が、どうぞ！

— お前の持っている金の額はいくらなのか。1！

— 誰がその金をお前に与えたのか。2！

— 予備の金を全部お前は出してしまったのか、説明しろ。3！

— 物欲は避けよ。4！

— テレフォン氏よ、聴覚言語障害夫人よ、そして目に見えない友人たちよ！ 私は本気になって次のように言おうとしているのであろう。つまり、このことについての困った点は、もし忠実で豊かなるリヴィア【ALPのこと】が、この世の中の風向きにならって今までの生き方に背を向けて、丘を登って愛人たち、即ち、ノース・ポー族長、ゴーズ・イン・ブラック・ウォーター族長、ブラウン・プール族長、海のそばに住むナイト・クラウド族長等、アイルランドの髪黒い男たち等を探し求めたとしたならば、そしてまた、もし琥珀色の髪をした魅力あふれるリヴィアが、モアビット【ベルリンの監獄】から出て来た、(547) 彼女を陵辱することも出来たかもしれない、辺りを徘徊する下司な追いはぎの悪党たちからあからさまに指図され、歪んで寝にくいサフラン色の彼女のベッドを抜け出たとするならば、彼女をだました奴らがいっただいどこで罪を犯したのか問うことも、結果的に有効なことになるであろう。しかしながら、私のよき妻から聞かされてきたのは、これとは全く見当違いの話であった。というのも、まさにそうだと心から断言してしまうが、新たに生まれてくる者にとっては淑女であるこの金髪の川であるリヴィアに対して、私はそのようなことはせずに、私の行動規範であった公正さの範疇に属する事柄を確かなに行ってきたからだ。その公正さは今はもうないのだが、たとえそうだとしても。というのも私は彼女を愛していたからだ。また彼女の水の精ぶりを寛大に見つめてきたからだ。そして彼女は泣いていた。アア、我が愛する者よ！

— 我々が会う時まで！

— 我々がバラバラにならないうちに！

— 全員が！

— 今度は100年だ！

— 私は彼女と固く結びついていて。そして私は最も豊かな幸福を受け取っていた。目を塞ぎ、口を塞ぎ、耳を塞ぎ、鼻を塞いで嫉妬心を覆い隠しながら。そして彼女という川を筏に乗って見事に進んでいき、歩くペースで、彼女に陸地を案内した。レイクスリップからループライン橋まで、港の浅瀬を進むように、潮に乗って進みながら、ケヴィンズ・ポートや、ハードルズ・フォード【古代ダブリンの呼び名】、ガードナーズ・モール【オコンネル通りのこと】近くでは悲しげな音を立て、長い川沿いの通り、大きな土手を通り、それからリンセンドの入江と渡船場へ行き、そこで彼女は少しばかり、私の投げるべき槍【ペニ

ス】にぶつかり始めた。その場所で、南の砂州の波打ち際で、アイアス【古代ギリシャの英雄】とまではいかなくとも、ターフリン【アイルランドの伝説の英雄】と同じくらいに恐れを抱かずに、私は棍棒をマストの高さにまで高くした。そしてトリトンの家系を生んだ父親たるトリトンのごとき絶対的支配者である私は、石突きをつけ、自分の手品師としての尖ったポールを憤らせた。そしてこの騒がしい海に向かって自ら我々から退くように乞うた（下がれ、吃音者であるうう海ども！）。馬力のある男性性を発揮して、この凶暴な花嫁の処女性を減退させ、肉体的に彼女を知ったのであった。この時自分の体のすべてをもって、結婚した自分の妻を崇めたのだ。天は鳴り響き、ハーデスは祝福の言葉を彼女に投げかけた。そして私は彼女に最高の喜びを真っ逆さまに投げかけた。呼びかけの土手から反響の土手へと。メキシコ湾流の渦の中で我々を一体化させるくらい強い弓によって（タラッタ！ タラッタ！【ギリシャ語で「海だ！ 海だ！」の意味】）。そしてリング通りに至るほどに広く私はアイルランド性をもった彼女を親指で指差し、職人の技で皆に向かって、今日も、昨日も、明日も、永遠に、一生涯、自分のものとしたのである。最高のお前を基調とせよ、お前よ！ お前は、お前は降参するがいい！（積み荷の際の何と騒々しい声なのだろう！雄牛のような蒸気船の何と低い汽笛なのだろう！）(548) リヴランド【バルト海の一地域】からは健康を祈る言葉が、ラトヴィアからは祝福の喝采が！ 新婦付き添い役としてのアジアの皇后とコロンビアの女王とともに、花嫁を祝う音楽として鳴き砂の音が聞こえる中。ガチョウの油を我々は塗られ、カナリアたちがパラード風にさえずり、そして私は彼女に花束を掲げ授けた。そして私は名前入りの南京錠を、ボルトをつけてから彼女の体の周りにつけた。私が彼女の愛する者である間、私の可愛い、愛するアッピー・リップピア・ブルヴィアピッラは墓の中に入るまでそれをつけておくことになる。毒気を放ちながら彼女の部屋に近づく者をとらえておくために、彼女の貞操の友に鎖をかけた。こうするのが、激情に駆られる者を罰する最善の方策と考えたのだ。私は彼女の結婚の相手であり、貞節の対象であり、エベレスト山であった。彼女は私のアニーであり、ローライであり、タンポポであった。私の勇敢さを無視して誰が彼女のことをあしざまに言ったであろうか。自由の扉である私でなくて誰が、彼女の素晴らしさを学士出の権力者たちに説明したであろうか。彼らはトリニティーハウス【海運管理局】で彼女に出会った。私にしてみれば、彼女は彼らの有り金では買えない最高級品であった。もし私が狡知を試みて彼女を置き去りにした時には、それは私の悪行であった。私は心の中で、こうした犬のような下司たちを追い払おうとしなかったであろうか。高貴な人間の常なる目的である敵を切りまくるといふことの才能を私はもっていなかったであろうか。富ある者としての権利に活力を与えられ、私は男としての力の及ぶ限り、愛に満ちた親

切さで、ひねくれた害虫どもから彼女を守り、細かな点に至るまで彼女に自由の権利を与えたのだ。そして私は年下の百合のような女に次のものを与えた。柔らかなガチョウのもも肉と金物類（全部カタログを通して）、伝線しないストッキング（ストッキングを編む者のつけている衣服を見よ）、コケットリーな修道女用フード（「アグネス」【パリの婦人帽の専門店】の帽子を見よ）。ペニーの範囲で買える最高の味の黒い木の実、銀色の水に差した薔薇、新しく美しい装飾小物の安価品、レッドファン店【パリのファッションハウス】やローリット店で売っている細身用のフロックコート、牛のような女たちがさらけ出す肌の透けて見える服、深い毛の毛皮服、ピム店【ダブリンの布地屋】やスライン店【ダブリンの婦人専門店】やスパロウ店【ダブリンの婦人専門店】にある最高の品物、留め金に当たる贅を尽くした光の輝き、『春の海』、『燃えるようなピュラー【ギリシャ神話で人類の祖とされるデウカリオンの妻】』、『金色の虹』、『冬の微笑み』、及びクリノリン【裾が膨らんだスカート】、州の鉱泉、彼女にとって足への拷問がどのようなものか分かることになるであろう女性用木靴、手慰み用の貝殻玉の数珠、陶器の破片が映っている水銀色の光沢の鏡、こういったものは、私によって優雅さを醸し出すためのものであり、お茶の時間、カップと小言の時間に使われるものだ。そして私は私の小さな白鳥の首のまわりに、彼女が沈黙している時に海の歌を奏でるように、海のムール貝の貝殻で出来たひとつなぎのネックレースをかけてやろう。そしてキングズ・コートで彼女に顔を上げさせ、彼女がどんなにひどい奇態な叫び声を挙げようとも、デー人への儀式に従い、彼女のくちばしに切れ目を入れるつもりだ【白鳥のくちばしに切れ目を入れるのは、国王の所有の印とされた】(549)(素晴らしい巧みさ！ 万歳！ 万歳！)。その間、レオナルド・コーナーおよびダンフィーズ・コーナーでは、牝馬の獣脂を使って起こされたかがり火の油壺が置かれ、5軒目ごとの家の前に聖母マリアの像のランタンがともされ、先が槍となった獣脂ろうそくがニッカボッカを焦がし、羊の脂のろうそくが黒い穴へと滴り落ち、酒を大量に飲んでいる者によって小さなろうそくと旗が掲げられていた。何日間も夜は存在しなかった。というのも、夜は昼間となっていたからだ。そして我々の国民は浅黒い異教徒の手から、異教徒は平和な王子たちの手から安息を与えられていた。震える大地はもはや揺らぐことはなく、凍結していた腰の肉は揺り動かされ生気を得た。暗い、死んだような、陰鬱な、悲しげな、物寂しい、おどろおどろしい、絶望的な七重奏は止み、忌まわしい、憂鬱な、おぞましい、恐ろしい、荒れ狂う、肝をつぶすような、ひどい、嘆かわしい、悲痛な、ぞっとするような、凄まじい12ヶ月は過ぎ去った。そして私はキリスト降誕祭に、私のか弱き人、私の鳩、私の美しい鳩【ALP】の夕食の時間に、ケティル・フラットネブ【バイキングの王】のたた助けを借りて、タールを塗ったウェストウインド通

りやエルギン・マーブルズの展示場に、弱まりつつある光の月を吊り下げた。そしてその光は、柔らかに隅から隅まで、私のリヴィアの躍進した帝国すべてにわたって、陽極から陰極まで照らし、そしてアークローにあるジメンス社製の海の男を引きつける灯台のサファイアのような光と、ウェックスフォードのクルック【教区名】やフック【岬名】の明かりとなって、ウィックローのモーン山地の黄色のざくろ石から、ハイ・キンセラ【レンスターの大君主の領地】の未開拓地までを照らし出したのであった。あなたは河口の都市ダブリンの王冠である真珠がハミングしているのを見たことがあるか。海の4分の3を挽き網で探り、あらゆる空瓶をポルトベッコ【ダブリンの一地区】に埋めたのだ。ジャックやマーティンを蔑ろにしていた頃、私は素行の悪い子供であったが、しかし私がサント・ペテルブルグに行った時、彼らは私のいいところを認めてくれた。古代世界でシーザーが切り開いたことを、ソーヤー【アメリカジョージア州にあるダブリンの建設者】のような人物は緑の地【アイルランド】で切り開くことが出来るのだ。ブラジル島では私の財産が失われ、傷ついた自分を哀れに思いつつ、悲しみの快感を味わった。この場合、支流である奔放なオコンヌ川が本流であるアルタマハー川と合わさるように、黄褐色の小川が銀色の小川の傍らで広がるように、私の愛情の対象である小さな人と一緒にいると、満足し落ち着いたのだ。私の言う有用な思考を持つ彼女の知力には私は魅力を感じた。そしてエイミアン通り【売春街】で豊かな安息を得ようと酒を飲みながら、私は彼女の体を鯨のように豊満にしたのだ。大酒飲みの教会吏人たちは巧みに飾り立てた、堂々とした野外劇を彼女に見せた。その劇には、詐欺に引かかった、最も高邁なる人物である行商の服屋アダム、ジャガイモの詰まったバスケットをもったコーンとオウエル、自分の事業を解説しているノア・ギネス卿、らくだの体にこぶを作ったジョー・スター閣下らが出ていた。私は取り巻きから6.5ペンスしほりあげ、【野外劇中の】皇帝からアイルランド9ペンスしほりあげた。ヨシユアからゴドフリーに至るまでの偉大なる者は2度も3度も祝福【カーテンコール】を受けたが、我が「予言者たちの行進」は永遠に褒め称えられたであろう。モラル：必ず記録にとどめよ。新聞を参照すること。

—— 彼は全くの浮浪者というわけではない。

—— でも彼の家族はほとんど彼に食べ物を与えない。

—— 大きな共同社会【浮浪者集団のこと？】を作るのに適しているのはステイーヴン・グリーンだ。

—— 蒸気船パドリック号が港に入っている。

—— そしてこれらのこと以外に、私は私の女房、私のレンスターの妖精である彼女に、彼女の生ゴミのような匂いの口臭を治すために、次のような美味な食事を出した。ガーリックを使ったイタリア風ランチ、豊かな味の髓付き肉1口、ガーリック味のすね肉、胡椒をかけた豚肉、キャベツの和えもの、ピンク色の海藻、軍の司令官が食べるよ

うな牛肉の極上品、聖パンクラティウスの祝祭日に出るようなゼリー状砂糖菓子、復活祭及び聖霊降誕祭に出るブディングの栄養素をもったショートケーキ、昔のパンとナッツ、蒸し料理屋が出す壺に入った肉、コーヒーやヤラッパがもつ薬剤成分、アシケロン【パレスチナの港】から取り寄せた小さなタマネギ、このような彼女にとって都合のいい食事を出し、それら【食事の余り?】を大地に渡すようにしている。サフランのような香りの口をもつ、私の皮膚病にかかっているモンゴル人【ALP】に、使いやすい水差し、股間の体毛用ブラシ、茶色だが見目よい女陰をいたぶるための馬用の毛梳きブラシとともに、彼女の浅黒い詮索好きの顔のために、ボルウィックス・ベイキング・パウダー【健康食品】とオリーブオイル、キューティクルを保護する軟膏を渡し、また彼女が座るところのちりを払うためのモップや箒、普通よりも湿気が多い彼女の部屋用の、吸湿のためのシダ（その効果は素晴らしいものがある!）を渡した。私の住居は汚れているにもかかわらず、素晴らしいガラスの張り出し窓、布で飾った斜間、金で縁取られた本棚がある、我々のエスキュリエル宮殿にあるような大広間で、血のつながった者同士がもつ親切心が何週間もの間に洗練されていくと、夕食の時に遊び事を工夫して編み出し、彼女の頭をしなやかに悩ませたのであった。ウィートイアーズ、スラップバンダ、ドレイパー・カット・ディーン、プレイ、ナップ、スピネイド、ランター・ゴー・ラウンドなどのトランプゲームでもって。我々は諸々の市長閣下、女性市長閣下から、我々の共同生活のために、防水布が掛かっており、技量を尽くして油絵として仕上げられた、有名な彼らそっくりの肖像画を通し、叩頭の礼と満面の微笑を受け取った。即ち、コザックのタメルラン、ディック・ホイッティントン、ピーター・ストイフェサント、追放されたオニール、カレンズ夫人、レイソーン・フィジズ夫人、ダッテリー夫人、ブルーニー・ケチュ夫人などである。私たちが信頼している彼らの洗足及び6つの信条は、監督者であるアモスの書の第5章第6節に書かれてあるようなものである。彼女は2拍子で優美なお尻を見せながら、アーチ形天井の広間で「美しき青きドナウ」を踊っていた。一方、私は輪になって踊っている集団がたてる大きな音に目がくらみ、ボーッとになって、(551) 確かなバランスを失い倒れてしまった。私たちの冬宮【セントペテルブルクにある旧宮殿】ではダンスは最高潮に燃え上がり、ついには善き者のためにも悪き者のためにも私たちは神を称えた。彼女はウィガン【イギリスの鉱業都市】の宝石【石炭】で足を温めながら、不肖の息子たちについての思い出話を物語った。彼女が孔雀の玉座【インドの17世紀の玉座】に座し見下ろすと、窓枠から外れたところで皆がアイルクリムをなめながら、カミース【長袖のシャツの1種】を着た彼女を褒め称えた。ダイアナの住むカーテン通りでは、目に入るものすべてに気をとられてしてしまう。よろしいか、もし私が全世界の創造主であるな

らば、彼らの姿は神を崇める姿になるであろう。即ち、小さな赤い帽子をかぶり、燃え殻のような黄色の服、金銀糸を使った服、光る装飾品、そしてフードの下に胸当てをつけているのだ。私は真っ平らな多くの愛する野畑を利用して低木の中に気ままに排尿した。私はお前への夢に浸った、完全にという以上に。たくましい職人に対する女性の愛の光に対し喜びの鐘を鳴らす館の中で、私はお前を待望していた。我々は人々を受けるとらいなのだ。私は交代制ではない売春婦に對しこう言った、君の父親になろうと。粗野な者や話し好きな信徒たちにはこう言った、ヤア、同志よ!

良き知らせ、福音を伝えよう、迷える者、疎まれている者、そうなるであろう者全員に、癒し手の言葉として無限の力をもっているものを。彼らは皆、以前彼らもっていた完全なる清貧、能力、陽気さ、有用性、報酬が広がり、頂点に至ることを目指し、焦燥に駆られることなく、彼らの定着と増大及びある程度の統合、拡大といった組織のための協調に、統制をとりながら各自の意志によって寄与しつつ、彼らの第2のアダム【キリスト】を通して全員生きていかなければならない。私の引き舟はグランドカナルを進んでおり、私の船はロイヤルカナルに長々と浮いている。そして私はこの地方都市にある私の観測所の中の、昔から備えられている天体観測器の下に、私の愛する者のために、私の輝く眉をもった者のために、彼女が安息日の戸外の騒音が静まるべき時に、必要に迫られた際最も都合よく落ち着いてしゃがめるよう、ショーン社製排出装置のついた野天便所を作ったのだ。私は理知的な、神々しい、一生涯奨学金返還免除の特待生である3、4年生のいる大学を、モルタルと板で堅固に建てなかつたらうか。私の名前はロゼッタ石のような、小エジプト【15世紀のジブシーが故郷とした仮想国】の石碑に載せられなかつたらうか。私は象形文字や古代ギリシャ文字や古代エジプト文字を読み手のために岩に刻まなかつたらうか。私は3つの紋章と2つのメダルを授かった。また私の7種に変わりゆくアイルランド人特有の博愛の精神により、スレッドニードル街やニューゲイト刑務所やヴィーナス通りを12回【毎月?】通って【人生経験を積むこと】、世間に対する洞察力を得ることはなかつたらうか。私の緩慢ならくどのような歩みは巨大で偉大なのだ! いかなる壮麗な門も私の門に近づくことはないであろう。あなた方多くの者が呼ばれたが、私の少数の者たちのみが選ばれたのだ(父、父、古の父、(552) 彼が古きセイラム【現在のソールズベリー、大聖堂がある】に赴くことはそれほどにはなかつた)。私が作った四つのターミナル駅は、ギーナー駅【グレート・ノーザン鉄道のもじり】、グレアソーウェア駅【グレート・サウス・ウェスト鉄道のもじり】、デブウィックウェック駅【ダブリン・ウィックロー・ウェックスフォード鉄道のもじり】、ミフグレアウイス駅【ミッドランド・グレート・ウェスタン鉄道のもじり】であった。また私は相反する立

場を取る双子の教会堂を建設した。私の建てたこれらの木造の教会は、皮のむけた小枝と洪水の際のニカワ状の泥を見事に身にまとっていた。今は全体的にレンガがグラグラしているが石は堅固なままで、大まかに補修され、アーチ状となって神との契約者と罪人の避難施設として使われている。星々の聖なる英知は天から我々の上に降りそそぎ、我々の祈りはあなた方の教会の身廊や後陣に、永遠に永遠にあなた方の頑丈な丸天井に降りるのだ。ハム族の者よ、今を見渡せ！ セム族の者よ、過去を見直せ！ 角笛よ、静かにせよ！ 犬の吠え声をたてさせてはならない！ このあたりは神聖ではないか！ あらゆる怠惰な小人たちに、あらゆる破壊的な小人たちに、私は強制的に教会を建てさせた。サア、やれ、サア、やれと急き立てたのだ。カッセルや、レッドモンドや、ギヤンドンや、ディーンや、シェパードや、スミスや、ネヴィルや、ヒートンや、ストーニーや、フォーリーや、ファレルや、ヴァン・ノスト、そしてソーニークロフトも、ホーガンにも【カッセルからホーガンまで全員ダブリンの建築家あるいは彫刻家】。聖霊たちも私に仕えてくれる、悪鬼たちも守ってくれる！ 私のタイル作りの仕事場を保護せよ（オオ、我が種族よ！ 我が民族よ！）。私のやりがいを保ってくれ、私の造った4本の偉大な道の平安を保ってくれ、ウィリアム・ブースが唱える救済へは呪うべき地獄の道を、スウェーデンボルグが唱える地獄へは深遠な天上の道を！ 私は彼女を迷わすために7つの通りをたどった。そしてどの通りにも救済の小路が分岐していた。これらの小路では一陣の風で旗が翻っていた。この風は彼女にとってはスカートを膨らませるフープであり、彼にとっては帽子を飛ばすものであり、付近の庭にとってはそこを乱すものであった。そしてこうした理由でバルバス【シーザーの部下？】は壁を壊され、近隣のスザンヌたちは住むところを変えたのだ。そして3番目に、私の愛する美しい者のために、私の可愛い涼しげな巻き毛の持ち主のために、私のとび色の髪のはにかみ屋の引っ込み思案の者のために、クロスノール【バイキングの女王が十字架を立てた丘】の上のアイルランド的宮殿を絶えず建て替え修復した。そこには大きな音を出す6トンもの、大寺院にあるような、正確な時刻を告げる、時計係のいる鐘があった。ドン、ディン、ドン、ディン、ディンと鳴り響き、そしてまた賞歌のオルガンは神の栄光を伝えていた。それに加えて、彼女を焼く地獄の炎を消してしまう底の浅い洗盤があり、また張り出し窓のある家のために薔薇が飾ってある窓がついていた。主よ、哀れみたまえ、キリストよ、哀れみたまえ。トランペットは驚くほどに高らかに鳴り響き、オルガンの音も轟いていた。その後、彼女は唐辛子味のボンボンを口に入れ、ボンネットを40個持ちながら石の祭壇に座った。すべての者が大いなる栄誉を授かりますように！

—— 幸いあれ！

—— 幸いあれ！

—— 幸いあれ！

—— 幸いあれ！

—— そして聖杯の中で凍ってしまうような、聖具室で泳いでいるような、ひょうが辺りを閉ざしたり、雪が降ったり、陰鬱なぬか雨が降ったり、みぞれの驟雨が降ったりする、ありがたいこのような天候でも（553）、きれいな革製の表紙の本や調練のための鞭をもって、貞節を誓った私は、ボーイッシュな私の乙女にうぬぼれを感じながら、私の田舎住まいの可愛い人であるこの愛しいアナに、アルファ、ベータ、ガンマーから、樺、松、いちいまでを、ドラムのような小言の後、藤の生木のその鞭を使って教えたのであった。アア、聞け、聞いてくれ、耳を澄ませてくれ。リフィー川の前、通りに貴族が寝そべり、淑女がうろつき、カモミール山道がプリムローズ丘と交差し、コニー・バンドがマルブレイ・アイランドと境界を接し、しかしながら全体的に木々の枯死した土地が忌々しくも小便に覆われていたずっと昔から、刀が一度も血を流したり血で汚したりしなかった場所に、織り端のついたマットのような労作の芝の庭園、ガーデン・シティーにあるようなカーペットの庭園を私は広げた。そこに、ピラミッドのように巨大な店舗、モスリンの織物店、火災報知器、大競技場、神学校の悔い改める場所としての鉛筆形の塔、遊歩道、彫像、礼拝堂、メヌースのパネル像、兄弟テバルド像、珍重かつ称賛に値するネルソンピラー、水引き屋のジョン像【水道事業の功績者であるジョン・グレイのこと】、立派な外套をまとったオコンネル像、ウィリアム・スミス像、そしてこじんまりとした聖なる検問所（偉大なる者たちの栄光！）を置いたのだった。平日も休日も、グレゴリオ暦であれ、ユリウス暦であれ、カレンダーのすべての年自体が歩くことに喜びを見いだすまでそうしたのであった。そして私が熱い思いを寄せる舌足らずのこの私だけの若い女のために、ブドウ園を素早く作り、その周りに、【フェニックス・パークにある】チェスターフィールドの榆の木、ケント州にあるようなホップの木、長い峰のような大麦、人目につかない東屋、緑に洗われた別荘、生命にあふれた平原、（北アイルランドの）教会の必需品、アヒルのための池を巡らした。そしてまたホーソン峡谷、フューリー峡谷、ワルハラ神殿、鹿の猟場、そして草花の発芽の月や落ち穂拾いの月にはそぐわない、女王の永世を願うための庭園を守るマガジン要塞（端の方！ 端の方！）のある、フィン存在を示す墳丘を巡らしたのだ。そして（シーツ！ 静かに！）私はアルプスの様に高邁なアンナ・ブルーラベルのために、温かい心をもったこの若い女のために、（もぐり酒場で！）主要ブランドの昔からあるダブリンのスタウトを、混じりけのない、ああ泡立ちのよい、フレッシュなこのビールを、このぜぜ絶対禁酒論者のために、彼女の胃袋の不機嫌を解消するために醸造した。私はダブリンのために、歩道の前に、石を打って固め敷き詰めた馬車道、南北の循環道路、東の開墾地、西の開墾地、伸びる大通り、即



席の遊歩道を造った(馬に乗る者よ、ゆっくりやれ! 婚礼を催す者よ、出発してくれ!)。そこでは、真の人物であるヨーマンたちが乗る市街電車の軌道の中に(忠実な車掌が彼に料金を払ってくれと求めるまで待っていたまえ、このホース行きの車両のつり革につかまっている者を快く受け入れよ!)、アラビア産の駿馬と一緒にクライスデール【スコットランド産の荷馬車用の馬】、スペイン国王付きのトランペット奏者を乗せたローマ帝国時代の人力車、気が狂ったように暴れているムスタング【アメリカ南西部の小形野生馬】、(554)足を蹴り上げている御しがたいブロンコ【アメリカ北西部の放牧馬】、馱馬車、ウルン・ウント・タクシス【ドイツの交通企業グループ名】の馬車、せせ背の高いテイルバリ【イギリスの軽装2輪馬車】とノドノドノディ【ノディはアイルランドの軽装2輪馬車】が走っており、賑やかに1頭立て2輪馬車に乗っている者もいれば、輿に静かに乗っている者もいる。乙女たちと、ごろつき、すけこまし風の派手な服の男たちは、静かに隠れるように馬に横座りしており、その後ろで気取り屋が御者台に乗っている。雄ロバや、馬とロバの混血や、雌ロバや、濃い黄色の子馬や、白と黒のまだらのシェットランド産の子馬や、白と褐色のまだらのオークニー産の子馬が闊歩し(左足をあげろ、右足を舞わせよ!)、彼女を楽しませていた。そしてかか仮装で着るような外套を着た彼女は、小枝の鞭を打つ音を聞いてわわ笑っていた。こいつ等を痛めつけろ! 蹴り上げろ! しっかりやれ!

恥ずべきマシューよ! 恥ずべきマークよ! はははは恥ずべきルークよ! 恥ずべきジョンよ!

## (注)

『フィネガンズ・ウェイク』の原典は、James Joyce, *Finnegans Wake* (New York: Viking Press, 1947)を使用した。本文中の[ ]内の数字は、*Finnegans Wake*の原典のページを表す。【 】内の日本語は、該当箇所の内容を筆者なりに解説したものである。( )内の日本語は、原典の( )内を訳したものである。参考文献としては、以下の書を使用した。

1. Anderson, John.P. *Joyce's Finnegans Wake: The Curse of Kabbalah* vol.8, Boca Raton: Universal Publishers, 2013
2. Campbell, Joseph and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key to Finnegans Wake*. rpt. New York: Viking Press, 1944.
3. Glasheen, Adaline. *A Third Census of Finnegans Wake*. Evanston: Northwestern University Press, 1963.
4. McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Revised edn. Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1991.
5. Mink, Louis O. *A Finnegans Wake Gazetteer*. Bloomington and London: Indiana University Press, 1978.
6. Rose, Danis and John O'Hanlon. *Understanding Finnegans Wake: A Guide to the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982.
7. Slepon, Rahael. *Glosses of Finnegans Wake in The Finnegans Wake Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.
8. Slepon, Raphael, ed. *Fleet Search Engine in The Finnegans Wake Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.
9. 宮田恭子訳、『抄訳、フィネガンズ・ウェイク』集英社、2004年
10. 柳瀬尚紀訳、『フィネガンズ・ウェイク』I、II、III、IV、河出書房新社、1991年

## ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』 第3部第3章の概要(3)(p.527 l.3 ~ p.554 l.10)

大島 由紀夫

(東京海洋大学大学院海洋工学系海事システム工学部門)

**要旨:** ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第3部第3章の527ページ3行目から554ページの10行目までを訳出した。逐語的に訳した所もあるが、内容をくみとりながらその主意を表した所もあり、「概要」といった題名にした。この訳出した箇所では、ヨーンとなったシヨーンに対する、4人の博士の尋問の様子が記されている。

**キーワード:** フィネガンズ・ウェイク、第3部第3章、概要